

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4070703196		
法人名	ハンドツウハートネットワーク有限公司		
事業所名	グループホーム愛 八幡		
所在地 (電話番号)	〒806-0047 福岡県北九州市八幡西区鷹の巣一丁目7番7号 (電話) 093 - 622 - 8098		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5 - 27		
訪問調査日	平成21年3月17日	評価確定日	平成21年3月30日

## 【情報提供票より】(平成21年2月28日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14 人	非常勤 0 人 常勤換算 14 人

### (2) 建物概要

建物形態	(併設) / 単独		改築後4年
建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	6 階建ての	2 階 ~	3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	49,500 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 15,500 円
敷 金	有( 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	350 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(平成21年2月28日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.6 歳	最低	77 歳	最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	合屋医院 ・ 萩原中央病院 ・ 若戸病院 ・ 古橋歯科医院
---------	-------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地のビル街の一角に6階建ての複合福祉施設内2階と3階部分にグループホーム愛八幡がある。北九州市の在宅介護のパイオニアで、在宅介護にこだわり続け、グループホームが誕生したという過程があり、社会貢献度の高いホームとして利用者や家族との信頼関係も深い。利用者や職員は町内会の一員として、馴染みの関係で、行事や奉仕活動に積極的に参加している。法人内に医師、歯科医師、管理栄養士、社会福祉士等の専門職が従事し、利用者の健康管理は万全の態勢が出来ている。また、ベテランの職員は地域の会合に参加し、地域住民の介護福祉に関する心配事や相談事を受け止め、適格なアドバイスでコミュニティアクアを積極的に取り組み、地域との交流を図っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果は改善点が6件であるが、ホーム長、管理者、職員全員で努力し、4件が改善出来ている。今回は「評価の意義と理解と活用」「運営に関する家族等意見の反映」「夜間を想定し、地域住民の協力を得て避難訓練の実施と毛布等の備蓄」等の取り組みが望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価作成を職員に参加してもらおうようお願いしたが、協力が得られず、ホーム長のみで作成している。今後は全職員が外部評価の意義を理解し、自己評価を分担して作り、全員で協議してホーム長、管理者が取りまとめ、作成していくことが望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議は2ヶ月毎に、小規模多機能型居宅介護ホームと共同で開催し、利用者家族、地域住民、老人会代表、民生委員、地域包括支援センター職員、ホーム長、職員で構成し、各事業所の現状と課題等を報告し、参加者からは、質問や要望、情報等が出て、活発な意見交換会になっている。今後は参加者の協力を得て、運営推進会議が地域コミュニティの核として、発展していくことを期待する。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情相談窓口を玄関に掲示し、玄関に意見箱と筆記用具を置いている。家族の来訪時や運営推進会議の後等に家族から職員に直接口頭で意見や要望が出ている。家族から出された意見は職員で話し合い、出来るだけ反映できるように努力している。今後は、家族同士で心配ごと等話し合う家族会を設立していくことが望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者と職員は近くのスーパーやコンビニに買い物に出かけ、馴染みの関係が出来ている。公民館主催の文化祭や夏祭り、近隣パトロールやスポーツイベントに参加している。また、1階のフロアで地域住民を招待して、音楽祭を企画し、地域との交流を図っていく努力をしている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念として、奉仕の心と地域の一員として暮らすことを謳い、職員は利用者に対して「一日に何回笑ってもらえるかな?」という気持ちで寄り添い、ホームとしては「あなたの笑顔が私の笑顔」という具体的な理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームのいたる所に理念を掲示し、職員の名札の裏には理念を印刷して、常に理念を理解し、共有して実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入り、地域の行事などは準備段階から積極的に手伝っている。近隣のパトロールや公民館の作品展へ出かけるなど、地域との交流に努めている。最近では、近隣の方がホームに立ち寄ることも徐々に増えてきた。また、地域住民を招待して、1階フロアで音楽祭を開く計画もある。		
3. 理念を实践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は、自己評価、外部評価の意義を理解している。今回の自己評価は、ホーム長が作成した後、職員に回覧し意見を求め作成した。	○	職員一人ひとりが自己評価の作成に関わり、介護に対する意識を高め、ホーム長や管理者が評価の意義や活かし方を職員に説明し、サービスの質の向上に繋げていくことが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回実施している。会議には、利用者家族、地域住民、老人会代表、民生委員、地域包括支援センター職員が参加し、ホームからは現状、行事等を報告し、参加者から質問、意見、要望が出され、サービスの向上に活かしている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターを定期的に訪問し、情報交換や意見交換を行っている。		市職員の研修の場として提供したり、長年の介護の知識を活かして市の介護相談の講師を引き受けるなど、市と協働していくことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護や虐待に関する研修会に参加し、全職員の周知を図る為に内部研修会を実施している。管理者や職員は制度を理解し、資料を揃え、必要ときに支援できる体制がある。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の、ホームでの楽しそうな暮らしぶりを伝える手書きの温かみのあるホーム便りと、利用者一人ひとりの日頃の様子などを個別に手紙に書いて、家族の来訪時や郵送で渡したりして、詳しく報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に声を掛けたり、電話をかけたりに家族等の意見、要望を聞き取る努力をしている。また、玄関に目安箱(ご意見箱)を設置したり、苦情相談窓口を掲示しているが、意見、苦情はなかなか出ない。	○	家族同士で話し合える家族会を立ち上げ、家族会の意見、苦情として、気軽にホームに提出し、ホーム運営に活かしていくことが望まれる。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による、利用者のダメージを防ぐため、異動の前に準備期間を設け、職員と馴染みの関係ができて、異動を行うなど配慮に努めている。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	職員の採用にあたっては、性別、年齢などの制限はない。職員同士はチームワークのとれた職場で、一人ひとりの能力を発揮し、生き生きと勤務している。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりくんでいる	管理者、職員は、ノーマライゼーションの理念のもと、利用者がその人らしく暮らせるよう、人権についての理解を深め、啓発活動に繋げている。		
5. 人材の育成と支援					
13	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会の参加は少ないが、法人内では、専門家による定期的な内部研修が行われ、職員一人ひとりが、技術や知識を身に付け、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入して、同業者と交流し情報交換をしている。今後は、職員の相互訪問、勉強会などを行いサービスの質を向上させる取り組みを目指している。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者と家族のホーム見学や、入居希望者宅への訪問などを通じて、馴染みの関係を作り、利用者、家族が納得、安心して入居できるよう支援している。また、入居後は家族と連絡を取りながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	歌の好きな職員と一緒に、歌声が途切れることなく、楽しそうに生き生きと歌う利用者の姿は、共に暮らす家族の一員のようなものである。また、利用者職員は教えたり教えられたりしながら喜怒哀楽を共にし、支え合う関係を築いている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の声かけ、見守りの中で、利用者一人ひとりの思いや希望を出来るだけ汲み取る努力をしている。意向の表出の難しい利用者に対しては、家族からの聞き取りや過去の履歴から、本人の嗜好や希望、行きたい所等を把握し、毎日のケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	協力医療機関の医師、看護師の意見を聴き、利用者、家族の思いや意見を反映しながら、パートも含めた全職員参加の会議で介護計画を作成している。		
19	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヶ月に1度見直しを行っている。利用者の状態に変化が生じた場合は、家族、主治医に連絡しその都度見直ししている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近所にある商店街への買い物、ドライブなど可能な限り利用者、家族の要望に応じて支援している。また、リハビリ体操や口腔ケアに力を入れている。1階玄関のフロアで音楽会を開く予定もあり、事業所の多機能性を活かした支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族が希望する医療機関を受診出来るよう支援している。また、提携医の定期的な往診があり、24時間対応可能であることから、安心して適切な医療を受けられる体制が整っている。		
22	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた「看取り介護の指針」を作成している。利用者、家族、医師、職員全員で方針を共有し、出来るだけ利用者、家族の意向に添えるように取り組んでいる。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを傷つけないよう、人権に配慮した対応の仕方について、管理者は職員に常に話している。また、個人情報の取り扱いには、充分注意している。		
24	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調に配慮し、利用者のペースを大切にしながら、食事、散歩、買い物など柔軟に対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付け、時には買出しなど、利用者一人ひとりの力を活かしながら職員と利用者が一緒に行い、同じ食卓を囲み、同じものを食べて、おしゃべりしながら、楽しい食事出来るように支援している。		
26	57	入浴を楽しむことのできる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は2日に1回であるが、利用者の希望があればいつでも入浴できる体制である。入浴に消極的な利用者に対しては、気の合う職員が誘ったり利用者同士誘い合ったりの工夫をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や力に合わせ、洗濯物干し、たたみ、配膳、盛り付け、園芸など、役割を分担してもらい、張り合いのある日々を過ごせるよう支援している。また、カラオケ、リハビリ体操、午前中の歌の時間など、楽しみごとの支援をしている。		
28	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園に散歩、商店街へ買い物や、電車に乗ってデパートへウィンドウショッピングや外食、ドライブなど、一人ひとりの希望に応じて戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵はかけていない。フロア内に常時見守りの職員1名が残り、利用者の癖や傾向を掴み、見守り対応している。		
30	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている	消防署による定期的な避難訓練を行っている。災害時に備えて、お粥などの食料と飲料水の備蓄をしている。	○	災害を想定した実践的な避難訓練の中で、消火器の使用方法や点検、避難経路の確保など、地域住民の協力を得ながら、夜間を想定した避難訓練を行うこと等が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分量は個別に記録し、職員全員で情報を共有している。法人内の管理栄養士にいつでも相談できる体制がある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前のフロアには、ソファとフェイクグリーンが置かれ、ゆったりとした雰囲気である。玄関には畳のベンチがあり、季節の花が飾られほっとする空間である。壁には、利用者の楽しくて、生き生きした写真や折り紙の作品が展示され、温かみのある家庭的な雰囲気である。また、窓が広く自然光を取り入れ、利用者が気持ちよく過ごせるよう工夫している。		
33	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には利用者一人ひとりの似顔絵が飾られ、居室は広く、畳の部屋もあり、トイレ、洗面台を備えている。室内には利用者の馴染みの家具、仏壇なども持ち込まれ、利用者が家庭的な雰囲気の中で、居心地よく過ごせるよう工夫している。		